

平成と昭和を振り返って見ようー特撮編

アプリなどの動画配信サービスが多数存在する現在、テレビ番組を見る人は過去と比べると減少している。しかし、この苦しい中で放送し続けている番組は存在している。その中でも何十年以上も放送続けている番組が見つかる。しかし、長く放送をしていても、放送初回と比べれば多少の変化などが見つかる。その理由はテレビ番組も時代の流れと変わらなければ視聴率やスポンサーなどを失うだけ。

本稿では、ご長寿番組のジャンルの一つ、特別撮影で制作されている番組、特撮を昭和と平成に分けながら、企画方、ヒーロー像、と俳優陣の変化について語りたいと思う。

以下では平成特撮で昭和で見られない特徴、ヒーロー像がどのような理由で変化したか、と起用されている俳優陣について説明し、この変化がどのような影響を残したか調べる。

A. 企画方

平成特撮は「特撮像」を全体的に昭和と比べると変わりました。特撮は基本的には半年から1年間の週一回の連続放送。昭和シリーズは基本的には1、2話で完結や、バラエティー感覚で物語が企画された。しかし、現在の作品はNHKなどで放送されている大河ドラマのような連続ドラマ性を強調し、特撮が企画される。オダギリジョーによると当時の番組プロデューサーはクウガを企画される際、「特撮」より「一般的なドラマ」なイメージが強かった。例えば、仮面ライダークウガでは小さな事件が前後編で2話にわたり解決し、1年間にわたって1話に現

れた怪人の行方の謎を解いたり、視聴者に番組を見る理由を与える。昭和仮面ライダーシリーズは最終回近辺以外は基本的に 1 話完結で放送されていた。

「地球戦隊ファイブマン」をプロデューサーとして担当していた、鈴木武幸氏は売り上げ不調とマンネリ化から立ち直るために、様々な手段を選んだ。例えば、今までに、シリーズにはない物語を作るために新人の監督と脚本家が起用された。井上敏樹先生は「鳥人戦隊ジェットマン」ではシリーズ 10 作目「超新星フラッシュマン」より参加していたために、戦隊の簡単な知識を持ちながら。彼が今まで不自然と感じていた物語でなく、自然的におかしくはない要素を取り入れた。一つは当時話題の「 트렌디드라마」要素を取り入れ、戦隊の男女交際を強調する。ジェットマンのシリーズ構成を担当した井上先生は戦隊に今まで恋愛要素に無いのがおかしいと言う気持ちで脚本を書いた^[1]。ジェットマンでは、チーム内の恋愛三角関係が原因で戦隊の解散危機などが取り上げられた。これにより子供だけではなく、保護者などの大人が入り、視聴率が去年のファイブマンからの 6%から 7.1%へと上がった^[2]。

大抵の人は「特撮」という言葉を耳にすると幼児用番組を浮かび上がるだろう。しかし、AMAZON PRIME や YOUTUBE RED などの動画配信サービスが発達している現在、制作会社は様々な。動画配信サービスは幼児向け番組としてのイメージを裏切りように難しい番組などが制作される。2017 年は、AMAZON PRIME 用ドラマシリーズ、「仮面ライダーアマゾンズ」が配信される。メインテーマを「血」や「狩り」を取り入れ、仮面ライダーシリーズの通常要素を取り入れながらも、シリーズの通常時間枠で放送出来ない要素を取り入れた。通常の仮面ライダーとは違う「ハードーバイオレンス」が。第一シーズンの好評のために、アマゾンズはシーズン 2 や劇場版が両方制作された。

B. ヒーロー像の変化

[1] 「戦隊 20 年の戦い シリーズの変遷 ヒーロー性の多様化 鳥人戦隊ジェットマン」

[2] <https://www10.atwiki.jp/shichouseiko/pages/61.html>

他にも大きく変わったのは「ヒーロー像」、主役の特徴に変化だ。昭和の仮面ライダー基本的に熱く書かれていて、当時の子供達の理想的な「カッコよさ」で描かれていた。しかし、平成からは子供達が思う「カッコよさ」を取り入れながら、暴力的な強さと精神的なたくましさではなく、争いの辛さや哀しさを知り、人の心を癒せる「ヒーロー像」で企画された。例えば、「仮面ライダークウガ」の主人公、五代雄介（演：オダギリジョー）は優しい人柄で物語が進んだ。このような優しいキャラクターが9.7%^[3]の視聴率で視聴者に受けたために、その後のシリーズにも昭和にありがちな「逞しさ」ではなく、視聴者に近いイメージで「ヒーロー像」が毎年企画される。次回作の仮面ライダーアギト（演：賀集利樹）は同じように「リアリティ」を起用しクウガを上回る、11.7%^[4]を残した。

このような、親近感があるヒーローを出すために、東映側では「一般市民ヒーロー」を取り上げるようになる。例えば、昭和戦隊シリーズのメンバーは基本的に戦いの専門や組織に。しかし平成より活躍した英雄は高校性、お巡りさん、サラリーマン、ニートなどの視聴者に近い存在が起用される。元東映のプロデューサーで現在は角川で努めている高寺しげのりはインタビューでヒーローを書く際「超人的な理想像」、ではなく現実社会における理想に人間像としてヒーロー像を始めた^[5]。例えば、高寺プロデューサーが初メインとして、担当した「激走戦隊カーレンジャー」は特撮歴史で初サラリーマンヒーロー。このような親近感ヒーロー像は今後の作品にも影響した。

社会的親近感以外にも、平成より「対立するヒーロー」が導入される。例えば、昭和ではヒーローの間の喧嘩もありながら、対立などは見られない。視聴者に正義と言う言葉がどのように難しい事を教えるために、各作品では簡単な喧嘩ではなく、長編ドラマ構成にわたって対

^[3] <https://toretame.jp/list-of-heisei-kamen-rider-with-audience-rating.html>

^[4] 「INTERVIEW:6 高寺成紀」『語ろう！クウガアギト 龍騎』

立した。例えば、平成ウルトラ作品の三代目の「ウルトラマンガイア」ではウルトラマンが二人登場する。人類の味方の赤いウルトラマン、「ガイア」と生命を消す事が真の平和だと信じる、青いウルトラマン「アグル」。このように子供などの視聴者に正義がどのくらい難しい内容かが見られる。

^[3] <https://toretame.jp/list-of-heisei-kamen-rider-with-audience-rating.html>

^[4] 「INTERVIEW:6 高寺成紀」『語ろう！クウガアギト 龍騎』

東映作品に対立の考えが導入されたのはプロデューサーの白倉伸一郎氏からだろう。昭和特撮作品のヒーローの対立などの姿が少ない理由は、昭和のヒーローへの考え方は絶対正義。しかし、白倉氏の担当される作品は基本的に昭和特撮作品にあった善悪二元論に懐疑的であったため、彼が担当される作品は、ヒーローであっても人間性を全体に出す、あるいは「正義でも悪でもない、人間が生きるために必要な事」を物語に出す^[5]。例えば、白倉氏がメインプロデューサーとして担当した「仮面ライダー龍騎」は 13 人の仮面ライダーが自らの人間的な欲望の為にお互い殺し合う所が作品の見せ場。作品のキャッチコピーは「戦わなければ生き残れない」。このような難しいテーマが選択された理由は 2001 年 9 月 11 日のアメリカ同時多発テロが起きたために白倉氏は子供達に正義の難しさを教えるために、脚本家と監督と相談し、13 人の仮面ライダーが違う正義の考えを代表し、戦いのドラマが展開した^[5]。

A. 俳優陣

他にも昭和と平成を分けるポイントは、俳優陣。昭和作品は基本的にスタントマンが いる会社、JAC でヒーローの俳優が決まる。しかし、平成に入ると特撮だけではなく、基本的にテレビで放送されているドラマが減少する。そのために、新人の役者は特撮をデビュー作として扱い、芸能界に入る事になる。仮面ライダー、戦隊シリーズ、やウルトラマンは現在「俳優入門」として呼ばれている。仮面ライダーや戦隊シリーズは 1 年間放送のために役者にとって様々な事が習える。現在、若い女性の中に人気の俳優「竹内涼真」は「仮面ライダードライブ」で芸能界にデビューをした^[6]。他にも演技だけではなく、ヒーロー役が後に声優として活躍されるのも例外ではない。声優の M.A.O. は「海賊戦隊ゴーカイジャー」でイエローとして女優デビューしたが、その後声優として活動開始した。

^[5] 白倉伸一郎『ヒーローと正義』（寺子屋新書刊、2004 年）

^[6] <https://www.oricon.co.jp/news/2041476/full/>

しかし、新人のみではスポンサーや視聴率などが得るの困難になる。準レギュラーやゲストにベテラン俳優を起用する事により、スポンサーや視聴率だけではなく、ベテラン俳優が新人に芸能界について教わる事が可能。

新人役者以外にも平成作品では、アイドルやジャニーズグループのメンバーの活躍もみられるようになる。例えば、ウルトラマンティガのダイゴを演じたのはジャニーズグループ、V6の一人、。このようなアイドルメンバーを起用することにより、アイドルファンなどが番組を見、視聴率への上がりにつながる。他にもアイドルグループの起用により、主題歌、もしくは挿入歌を歌ってもらうため、売り上げにもつながる。ウルトラマンティガの主題歌、「TAKE ME HIGHER」はV6が担当し、ウルトラマンシリーズ初オリコンチャートに登場した。他にも、2017年より放送開始した、「ガールズx戦士シリーズ」で主役を演じる子供はタレントグループとして活躍するため、CDシングルは初週1.5枚を売り、そして玩具の売り上げが2017年と比べると350%上がった^[7]。

本稿ではまず、特撮の昭和作品と平成作品の変化について調べた。物語の企画方や登場人物のヒーロー像の違い、と起用される俳優陣のイメージ変化。結果として、特撮は昭和から平成作品は大きな変化を見た。しかしながら、プロデューサーや監督がどのような気持ちで制作に入れたか得られなかった。例えば、個人的の過去がどのような強い影響があったのか、もしくはスポンサーやテレビ局側からどのようなプレッシャーなどをさらに調査をしたい。又は番組自体の企画書と放送された物語が変わったかも気になる。次回は今持っている情報を元に更に特撮番組の企画と制作についても注目をし、今後の課題としたい。

^[7] <http://prehyou2015.hatenablog.com/entry/toynews201805>

⁽¹⁾ <https://www10.atwiki.jp/shichouseiko/pages/61.html>

⁽²⁾ <https://toretame.jp/list-of-heisei-kamen-rider-with-audience-rating.html>

^[7] <http://prehyou2015.hatenablog.com/entry/toyness201805>